

SEA TRIAL

PREMIUM LIFE

SEALINE S330V

3月上旬に横浜で開催された「JAPAN INTERNATIONAL BOAT SHOW 2019」で日本デビューを遂げたばかりの「SEALINE S330V」。イギリスにルーツを持つドイツ製ボートブランド「SEALINE（シーライン）」では唯一となる船外機艇である。33フッターのスポーツクーペを、浦賀沖の海域で試した。

text: Atsushi Nomura photo: Makoto Yamada, Masakatsu Sato
special thanks: WINCKLER www.sports-w.com
City Marina VELASIS www.velasis.com



爆発的な加速力と小気味よい旋回性能で走りを堪能できる ハイポテンシャルなアウトボード仕様の33フッタースポーツクーペ

2基の300馬力モンスターアウトボードを搭載した「SEALINE S330V」は、「SEALINE（シーライン）」の誇るスポーツクーペ。爆発的な加速力と小気味よい高速旋回性能、条件さえ整えば40ノット近くも夢ではないという、まさに圧巻の走りを魅せてくれる。

シートライル当日の浦賀沖は、小さめの波高ながら時折チョッピーなうねりも混じるコンディション。低速からぐいっと押し込むとほとんどハンブを感じさせずに加速、そしてプレーニングに入る。さすがにアウトボードモデル、以前試乗したキャビンタイプのインアウト艇「SEALINE C330」よりも立ち上がりは良好だ。そして2基の船外機は300馬力（合計600馬力）とは思えないほど静かなサウンドながら、ひとたび鞭を入れれば圧倒的な加速感を堪能させてくれる。全長10.31m×全幅3.50mと33フィートクラスとしては比較的ピーミーな艇体であるが、水面に思い通りのラインを描くことができ、実に素晴らしい操船性能を持っている。「S330V」は、「C330」などと同じく、近年のトレンドとも言えるバーチカルハウシステムを取り入れたハルを採用。同サイズで比べれば、より水線長を長く取れるため、33フィートというサイズ以上の走行フィールを体感できる。

高速のままうねりに突っ込んでみるが、波当たりは柔らかくハルの剛性感も高い。今回のトップスピードは37ノット前後。写真だけ見ると非常にアグレッシブなイメージを抱かれるかもしれないが、実際に操船してみると、驚くほど安心感のある走りが特徴で、加速感をも楽しめる。スタンダードエンジンは300馬力船外機×2基。オプションで350馬力×2基まで対応するという。今回の艇に搭載されているエンジンは2基のMERCURY V8 Verado 300。独特の外観を持つハイポテンシャルアウトボードだが、インアウトやインボードではお馴染みの定点保持機能も有している。ボタン





ひとつでスラスターに頼らずに定点キープが可能である。このクラスのスポーツクーペに求められるダイナミックさと安心感を合わせ持つ、得難い一艇と言えるだろう。

*

SEALINEは1972年にイギリスで創業したのが始まり。2013年にドイツのHANSE YACHTSの傘下に入り、工場そのものもイギリスからドイツに移転。現在は"ドイツ製"ポートブランドに生まれ変わっている。SEALINEには現行3ラインが用意されている。「C」の頭文字がつくCruiser Seriesが33～53フィート、「F」のFlybridge Seriesが43および53フィート、「S」のSport Seriesが33フィートだ。Sport Seriesには今回の船外機モデル「S330V」の他に、インアウト仕様の「S330」もラインナップしている。「S330V」は同社のミニマムライン、そして現行で唯一のアウトボードモデルだ。



現在のSEALINEは、世界的なヨットデザイナーとして知られる英国人ビル・ディクソンによってデザインされている。ビル・ディクソンはセールボートのデザインで著名だが、数々のパワーボートも手がけており、HANSE YACHTSグループとも密接な関係を築いている。SEALINE同様にイギリスからドイツHANSE YACHTSの傘下へ移った「MOODY」も同じく



多彩なバルカラーやファブリックのオプションも揃うヨーロッパ標準のスポーツクーペ。コクピット後部のデッキ下はインアウト艇でのエンジンルーム。船外機モデルでは非常に有用な大型ストレージとなる。右舷側にはバーベキューグリルも備わっている。



どこまでも開放的なコクピット。右舷にドライバーズシート、左舷にパセンジャーシートが並ぶ。MERCURY Skyhook デジタルアンカー搭載で、GPSを使った定点保持、さらに風や潮流の影響を受けない、位置と船首方位もキープできる。ロアデッキは驚きのヘッドクリアランス。明るい色調のファブリックを採用し、サイドウィンドウの面積もあるため非常に明るい。



ビル・ディクソンの手による。

最後に「S330V」のデッキ周りの特徴を概観しておこう。いわゆるオープンエクスプレスクルーザータイプのレイアウトで、ロングノーズのパウデッキには大型サンパッドを配置。コクピット幅を最大限に取ってはいるが、前後のアクセスに限定すればサイドデッキも十分な幅が確保されている。広々としたトランサムステップにブラケットを設け船外機を搭載。コクピット後部にはU字型の大型ソファが設けられ、中央のテーブルは上下に可動。下ろした状態でマットを敷けばフルフラットの大型サンベッドとなる。コクピットの天井部分と後ろよりの底部分はどちらもソフトトップとなっており開閉可能だ。コンディションの悪い日は閉じて、真夏の走行中は開放するなど好みや使い勝手に応じてアレンジできる。右舷にドライバーズシート、左舷にパッセンジャーシートが並ぶ。両シートの上にロアデッキへのコンパニオンウェイがある。ロアデッキは降りてすぐにミニサロンがある。左舷にL字型ソファのダイネット、右舷にギャレーと個室ヘッドが並ぶ。この空間のヘッドクリアランスは33フィートのスポーツクーベとしては

2基のMERCURY 300、4ストローク船外機を搭載。V8-4.6Lのモンスターアウトボードである。アクティブトリムを搭載しており、操船中はトリムコントロールをしなくても快適に走行可能だ。



驚きの高さだ。パウと後方に2つのキャビンを設置。想像以上に室内空間が広々としている。

*

アウトボードそのもの高馬力化が進む現在、以前であればインアウトをチョイスしていたような30フィート台のスポーツボートでも、普通にアウトボードが選ばれるようになってきた。メンテナンス性や保管のしやすさなどアウトボードならではのメリットを享受できるだけでなく、インアウトエンジンを搭載していたスペースをそのまま大型ストレージとして使えるメリットは大きい。それはこの「SEALINE S330V」でも同様、クラス以上の空間と、ハイポテンシャルな走りを体感できるだろう。 **P.B.**

SEALINE S330V

全長 10.31 m
 全幅 3.50 m
 喫水 0.94 m
 重量 7.06 ton
 エンジン 2×MERCURY V8 Verado 300
 最高出力 2×300 HP
 燃料タンク 570 L
 清水タンク 220 L
 スピード Max 36 - 38 kt
 問い合わせ先 ウィンクレル TEL: 045-681-0104
 www.sports-w.com



YouTube